

深夜に発生する衝撃音について

深夜にわたり、頻繁に強い衝撃音が発生し、私がイヤーマフを装着せざるを得ない状況が継続している。211号室の女性は、私が就寝する深夜の時間帯に限って、ほぼ毎晩、強い衝撃音を頻繁に発生させている。内容としては、テーブルや木製構造物を叩くような音、振動源と思われる装置を床に当てる音、または強力な音響を直接流す行為などが考えられる。

これらの衝撃音を防ぐためには、耳栓だけでは不十分であり、イヤーマフの使用が必要である。

また、イヤーマフを装着した場合、衝撃音を控える代わりに、より気づきにくい形で睡眠を妨げる振動音が発生しているように感じられることがある。

振動装置の構造について

この振動装置は、分離可能な振動音発生用の可動部と、建物に固定された転がり軸受付きの固定部の二つで構成されている可能性がある。

理由として、2～3か月前の深夜12時半頃、相手がハンドルのようなものを回し、装置から何かを取り外すような音を、壁に耳を当てて確認したことがある。

固定部は、相手室内の音を隠す目的で使用され、可動部は以前はマッサージ用途で使用されていた可能性があるが、現在は毎晩、振動音を発生させるために使用されていると推測している。

可動部を固定部に装着し、床に圧力をかけることで、振動音や超低周波振動をさらに強めている可能性がある。

高感度音声検知センサーによる監視の疑い

こちらの動き（手足の微細な動きや、わずかな呼吸音など）が相手に検知されたと感じた場合、以前から同様の状況は存在していたが、特に最近約1か月間において、毎日確認できており、約1分後に低周波で約0.1秒ほどの瞬間的な振動音が必ず発生する。

その振動音を合図に、振動システムの自動モードが次の振動サイクルを開始しているように感じられる。

私が睡眠状態に入ると、それを識別したかのように振動が加えられる。

一方、私が通常の音楽をやや大きめの音量で流すと、夜間は干渉がなく比較的よく眠ることができる。このことから、音楽によって相手側の睡眠監視用センサーが機能しなくなる可能性があるという推測をしている。ただし、通常の音楽は周囲の睡眠に影響を及ぼす恐れがあるため、普段はピンクノイズを流している。ピンクノイズには、振動音や相手側の強力な音響を弱める効果があると感じている。

身体への影響

後頭部が直接ベッドに接した状態では、高品質と思われる振動音がはっきりと聞こえ、脳に強く記憶される感覚がある。

日常音を装った振動音によって目を覚まされた場合でも、しばらくその振動音が残って聞こえることがある。何回も実証しているが、手や足をわずかに動かすだけで、その振動音は瞬時に止まる。その反応速度は、人間の反応よりも速いと感じられる。

振動源について（211 号室）

不思議なことに、ほぼ毎晩、私がベッドに入るタイミングに合わせて、211 号室の女性も起床し、振動装置を防音室内の、私の部屋側に最も近い床に置く際に生じる衝撃音が聞こえる。

その後、自動監視システムが稼働を開始した合図のような瞬間的な振動音が聞こえる。

さらに、振動装置に近い椅子に座ると、その瞬間振動の微細な物理的揺れを、皮膚で直接感じるほどの強さであることが分かった。

振動源の個数について

振動音を発生させる装置は、二つ存在する可能性があると考えている。

その固定部分の設置位置は、ベランダ側に近い場所と、玄関側に近い場所の二か所であると推測される。

理由は以下の二点である。

昨年 10 月頃、警察官に通報し、警察官と共に私の部屋内で 211 号室側の壁を確認したことがある。

警察官が入室する前、私が壁に耳を当てたところ、転がり軸受のある回転装置が動作しているような音が聞こえた。

その音は、壁の中央よりも、ベランダ側と玄関側で強く、壁自体が振動し、壁に固定されている硬質ケーブルモールからも音が発生していることを確認した。

調査の途中で、相手がこちらの調査に気づいた可能性があり、その後、玄関側の音は止まり、ベランダ側の音のみが残った。

これまでに 5 回以上、非常に立体的で脅威を感じる夢を見た経験がある。

数回は、巨大な蛇が頭から足まで床を這うように往復する感覚を、床に接した皮膚で実感した。

また別の数回では、複数人が室外で騒いだ後、私のドアを強引に開け、ベランダ側から玄関側まで往復しながら室内を動き回る夢を見た。

その内容には、室内で私を無視して相談する場面や、最近では暴力団が室内に押し入り、中国語で「これを開けろ、協力しろ」と脅す場面が含まれていた。

これらの夢の中では、動きが直線的に往復しており、1 台の振動装置では再現できないと感じ、2 台の装置が必要であると考えようになった。

また、強い振動によって夢の内容や会話が非常に鮮明に記憶されることから、自然発生的な夢ではない可能性を感じている。

振動による身体的影響に関する懸念

211 号室からの振動が、時折、私の脈拍のリズムに同期しているように感じられ、特に寝入りばなに全身が突然反応することがある。

さらに、睡眠状態に入ると、隣人がベランダ側に近い振動装置の出力を上げ、強い脈拍状の振動を発生させている可能性を感じる。

これまでに数回、深夜に目覚めた際、心臓の鼓動が異常に強く、呼吸が不自然になることに気づいた。

右胸には異常を感じないが、左胸のみ強い圧迫感や痛みを感じ、30 分以上、動悸が収まらないことがあった。

振動装置の出力の上限は不明だが、数回、ベッド全体が揺れるほどの異なる周波数の強い振動が発生したことがある。仮に同程度の強さの振動が脈拍状の振動として加えられた場合、身体への影響について強い懸念がある。

その理由として、2025 年夏頃、振動装置の存在を認識していなかった時期に、211 号室側の壁に接する床に直接寝ていたことがあり、深夜に臓器に関する中国語の解説ニュースによって目を覚ました際、呼吸が困難になり、上半身が動かしにくくなる経験をしたことがある。

不可解な行動

長期間にわたり、私の睡眠時間に合わせて、ベッドに入った時点から起床するまで、毎日振動を受け続けている。

振動システムには自動モードと手動モードがあるように感じられ、蛇や猛獣、暴力団の侵入、爆竹の爆発音など、脅威を与える内容が繰り返されている。また、自動的な振動が十分に作動していないと感じられる場合には、直接衝撃音をし、私の睡眠状態を確認できた後に、振動のパターンが変わるように感じられることがある。

その晩目覚まし効果が成功したと感じられた日は、朝 6 時頃から、格闘ゲームの「楽勝」といった音を誇示するように流していることが数回あった。

一度、防音枕から頭が外れた際、非常に恐ろしい夢を見た。

それは、213 号室の高齢女性とのトラブルを背景に、誰かがその女性を殺害し、50 代の男性が遺体の一部を箱に入れ、私に対して中国語で「殺しは完成だ、確認しろ」と語る内容であった。

目覚めた直後、体を動かさずにいると、「深夜 12 時以降はやるな、悪霊が出る。」「今は 3 時 12 分だ」という振動音が伝わった。

時計を確認すると実際は 3 時 55 分であり、まるでホラー映画のような体験であった。

原因についての分析

211 号室の女性は、風俗関連の仕事に従事している可能性があると個人的に感じている。

勤務時間帯は私と逆の深夜であり、私が夜間にトイレに行くなどの生活音が、相手の業務に支障を与えた可能性がある。

その後、私の深夜の睡眠を妨げる目的で振動音が発生するようになり、さらに私が警察に通報したことにより、関係が悪化した可能性があると考えている。

また、こちらの日常生活に関わる音や行動をもとに、大量の合成的な音が生じているように感じられ、そして深夜の睡眠中に集中的に発生している点について、継続的な行為として強い違和感を覚えている。

しかし、正しい価値観を持つことで相手を理解することも可能であると考えている。

人生に成功への近道はなく、一步一步努力して進むことが正しい道であり、近道を選ぶ行為は、最終的に社会に悪影響を与えていると感じている。